

「和」川柳社会報 六七一

鶴彬忌川柳大会が開かれました。この川柳大会は県内最大級の句会で、県内外から八〇余名が「積む」「るるん」など五つの課題に挑戦しました。会場には鶴彬や剣花坊、信子の句に高松中学の生徒さんが絵を描き、ランプの灯りで飾られました。岐阜市の小野小野三さんの「擬装した正論でまた多数決」が大賞に選ばれました。(九月二日かほく市高松にて)



皆で選んだ八月の秀句

ワーキングプアを作って生めという 寺内徹乗

9月14日(木)は鶴彬の命日 鶴彬分骨墓碑建立記念式 「ドイツの鶴彬」講演会など開催

← 何十年も前から人口ピラミッドが人口減少を教えていた。出生率が1.44。今後30年で2000万人減少するという。村度政治家が過半数の国会が変わらないと。

定例会 二〇一八年八月二七日(月)

定例会 於…金沢市金石町

◆ 目次

川柳互選

課題吟「生きる」…………… 2

自由吟…………… 3

自句／自解…………… 4

短信…………… 6

鶴彬全集刊行に寄せて

故・岡田一杜…………… 7

鶴彬忌川柳大会…………… 11

「在ソ三年生と死のドラマ」…………… 10

鶴彬没後80年企画…………… 13

報告・後記…………… 16

9月例会 9月24日(月)

投稿締切 21日(金)

課題「史・歴史」 3句以内

自由吟 5句以内

自選句、自解筆もぜひよろしく。

8月の
川柳互選

◆ 課題吟 「生・生きる」

(互選) 一人3句吐

2	あと何年？ 電卓たたき首疲れ	未知子	3	蒼天にひとりで吠えて生きている	ダン吉
2	底ついた暮らしはあと何年生きるやら	大峰	3	人倫を生きたと誓う「平和の詩」	林
2	国中をオレの掌中に嘘の生きざま	大峰	3	しこたまの汗生きているなと思う	ダン吉
2	魂がオキナワ生きる路示し	一角	3	若い生 原発ノ一の声じよじよに	和子
2	安倍嫌う翁長生きたる沖繩を	和子	3	大正昭和平成生きたる母の息遣い	亀公子
1	怒り増す 生存権を 踏みつける	広助	3	神の名で一億玉砕つい昔	立東爺
1	生きていゝ万物の霊長愚か者	未知子	3	時満ちてオギャーと吸つてフーと逝く	白真弓
1	手を使い言葉見つけ人となる	立東爺	4	透析や 生きて世直し 半歩づつ	宏
1	ポチの生きざま世界一とは言わず	大峰	4	白杖の先に広がる日々の生	白真弓
1	生きていゝ言葉見つけ人となる	和子	4	生きづらい社会をつくるアベ政治	林
1	生きていゝ万物の霊長愚か者	未知子	4	改憲のために生きてるアホがいる	徹乗
1	怒り増す 生存権を 踏みつける	広助	4	幾億年かけて人間この程度	立東爺
2	安倍嫌う翁長生きたる沖繩を	和子	5	絞り出す言葉は深くインパール	白真弓
2	魂がオキナワ生きる路示し	一角	5	生産性のない人間の生きづらさ	徹乗
2	国中をオレの掌中に嘘の生きざま	大峰	5	どこだって 生きてやるぞと 平和草	広助
2	底ついた暮らしはあと何年生きるやら	大峰	5	生き恥も苦にはならない金バッチ	亀公子
2	医療費が 生きる権利を 拒み来る	広助	6	被爆させ生きる苦しみ強いてきた	林

6	翁長さん皆の心に生きている	一角
7	三交代残業付きの生殺し	亀公子
7	生きる価値生産性の有無で決め	徹乗
◆自由吟 (互選) 一人5句以内		
	集団テロこちらもまとめ絞首刑	ダン吉
	軍隊は民を守らず国守る	未知子
	目の上のたんこぶ消した花火見て	一角
	がん手術やっつてはダメの教え増え	白真弓
	ランプさんよロシアゲートはどうなった	大峰
	進化樹のテッペン黒い色が付き	立東爺
	銀座自民亭雁首並べて競つて居る	大峰
	配り物のように捨て猫連れてくる	ダン吉
1	高学歴で過保護に育つた謝罪劇	立東爺
1	ひどい政治 支持率落ちぬ 七不思議	広助
1	もうやめて ギゾーネツゾーアベシンゾー	能沢栄
1	横田にオスプレイなぞ馬鹿にしないで	和子

1	「橋渡し」指を銜えて待つばかり	林
1	アベ首相 核禁条約 背を向けし	宏
1	沖縄よ安倍トランプにやられるな	和子
2	老々介護が老いても危ない事を知る	大峰
2	辺野古では政府が土砂を流し込む	林
2	前川節金沢にても染み渡る	和子
2	敗戦忌沖縄の空戦闘機飛ぶ	白真弓
2	国会は 平成余白に 大汚点	広助
2	国民を 裏切る政治 御免です	広助
2	ピンチだと思ふ私が試される	ダン吉
2	人波の中で私の小さい旗	ダン吉
2	謝罪するニュース毎日カツパ皿	立東爺
3	この道は いつか来た道 「アベ史観」	宏
3	安倍ひどい翁長知事を早死にさせ	和子
3	効果なしアベノミクスは口にせず	一角
3	部下の罪横目で見るだけ忖度連	立東爺
3	終戦に括弧をつけるアベ史観	林

3	新基地のZOO 亡き知事意志を 守り抜く	宏
4	反対の声も辺野古の海に埋め	徹乗
4	オスプレイ 日本のどこも 不要なり	宏
4	原爆忌 市長言葉に 重みあり	宏
4	被爆者も辺野古も無視の面の皮	亀公子
4	沖繩に民意の風よ逆巻けよ	白真弓
4	総裁選目くそ鼻くそ一騎討ち	徹乗
4	血税を廃炉の穴へ垂れ流している	亀公子
4	故知事席辺野古ブルーが目痛い	白真弓
4	野ざらしで錆たフクシマドラム缶	一角
5	出世して回って来たぞ謝罪役	立東爺
5	官邸に見え隠れする「大本営」	林
5	戦争という消しゴムで消す平和	亀公子
5	戦争を反省しない首相の黙祷	徹乗
5	私で終わりにしてとガマの骨	林
5	五輪旗で学徒動員始める気	一角
6	悪臭が煮えたっている与党鍋	亀公子

7 翁長さん沖繩人の盾となる 和子

7 安倍帰れ怒号聞こえる原爆忌 徹乗

8 ワーキングプアを作つて産めという 徹乗

自句自解

白真弓

時満ちてオギャーと吸つてフーと逝く 白真弓

「生・生きる」の課題は、私にとつてあまりに身近で辛いものがありました。ちょうど最近、医師に今後の治療を提案されました。西洋医学的粗療法をするか、代替医療でおだやかな治療を選ぶか、はたまた一切の治療はしないかと、命の選択を自分に迫っていたのです。

そんな時、ふと思ひ出したのが、死の場面でした。これまで三人の臨終に立ち会っています。その三人とも最後に大きな息を吐いて逝きました。

その時、あゝ、息をすべて置いて逝つたと思つ

今月の
自選連作

◆白真弓

○敗戦備忘録

上野駅ふるさと知らず眠る子等

幼子のくるまるゴザに缶一つ

たのです。人は生まれるとすぐにオギャーと泣きますが、あれは肺呼吸がはじまった合図です。地球の息を吸い込んで、人の人生がはじまります。逝くときは、霊の世界では必要のないすべての息を置いて移るのでしょう。

と、ここまで考えたら、もう生に固執するのが、バカバカしくなっていました。

◇自選句 闘病句

もうたくさん医師が指揮とるガン治療
2センチに伸びた髪撫で原爆忌
徹底の迷路から出る陽は高し
昼下がりがケモブレインを黙る医師
認知障害副作用とは雷雨とどろく

◆自選句 中野林

アメリカに付き従うこと半端ない
トランプが爆買いさせる装備品
「改憲魔」人の命を軽く見る
太刀持ちが核軍拡の道を行く
アベ色に染まった空気息苦しい
暑さより命に関わる戦争法
独裁の分身たちが騒がれる
男には「加点免許」授けてる

憲法を壊す総理に終身刑

また僕を逮捕する世に戻るのか——鶴彬——

◆寸評 & 自選句 岩原一角

「アメリカの謝罪いまだに原爆忌」（岡田一杜）

この句、岡田さんの「諷意抄」という作品群の中のもので、石川近代文学全集19巻近代川柳という書に載っている。長崎で生まれ育ったことを生前あまり口にされなかったために、私は当初ずいぶんイデオロギッシュな句だと思ってた。しかし、ABCからの手紙や被ばく者手帳の交付申請と、無残にも中西陽一石川県知事が却下した話をお聞きしてから（この句は、被爆認定されなかった一杜さんの無念とアメリカへの怒りの句なんだ）と理解した。

こういう点は、戦争体験のない私や同じ世代

の多くは鈍感である。

しかし、その体験のある方がたが次々とみられた現在、それでも私たちが勉強して、語り継がないといけない。そんな気持ちで迎えた原爆忌であった。

「熱帯地獄石炭掘りも辛かろう 未知子」の670号の句ですが、選をした当時は日本全国猛暑で、当然日本の話だと思いました。和川柳社は時事吟が基本なので、もちろんそうでないというご意見もありますが、大勢はそうです。

すると、石炭掘りが？ です。日本では今は輸入に頼っていますから。だから、ここは立東爺さんご指摘のように、アメリカのランプ政権を揶揄していることが解れば、結果は違っていたでしょう。

今のところ「地獄絵図アメリカ酷暑石の炭」が浮かんでます。

諷詩 柳壇

岡田一杜さんが 「鶴彬全集」に 寄せた文章 紹介

8月15日「不戦のつどい」に吐く

モンペ見て、地味な柄だと思っ俺

この人も花柄の服欲しかった

春物も夏物もない地獄の日

戦争は服も平和も奪いゆく

一角

「鶴彬全集」は一九七七年の鶴忌（九月十四日）に発行された、一叩人氏編纂によるもので、この全集の上梓によつて鶴彬が社会派川柳人として川柳界に定着した。その完成までに岡田一杜さんが資料収集などで協力した。全集完成後、一杜さんの手元に返っていないものも多数あるのだが、同全集を見てもそうした事情が伝わらないのは私たちに少々もどか

しい。とにかく同全集の付録（小冊子）に一杜さんが寄稿しているので、以下紹介。

付録には次の人士が寄稿している。秋山清（詩人）、河野春三（「風」主宰）、紀田順一郎（評論家）、佐藤冬児（鶴彬研究者）、中野重治（作家）、渡辺尺蠖（『川柳人』同人）。

鶴彬全集・刊行に寄せて 岡田一と

短詩文芸「川柳」のもつ批判精神を通じて時の権力とたたかい反戦川柳人として二十九歳の短かい生涯を了えた鶴彬については、今日まで各方向で多くの人によつて綴られてきたが、戦後、川柳界ではじめて彼を紹介したのは一九四九年九月三十日発行の「人民川柳」誌に載った小池蛇太郎氏の〈鶴彬のこと〉と題した小文であった。それから二十七年の歳月を経て今、一叩人氏の実力により、作品、評論その他研究資料の殆どが集成さ



れたことは鶴彬
研究に大きな意
義を与えるとと
もに川柳発展の
ためにもよろこ
ばしいかぎりで
ある。

一九五五年

(昭・30) 暮に金沢の和川柳社で「鶴彬を偲ぶ」座談会を催したのだが、翌年の九月には十四日の命日に、第一回の鶴彬忌川柳会を行い、これには彼の評論に出てくる森田一二氏も参加し、その後毎年鶴彬忌句会は行われている。また一九六五年の九月十四日、金沢市卯辰山公園にはじめて彼の句碑か建てられ——句へ暁を抱いて闇にゐる蕾——
——一九七二年九月には彼の郷里石川県高松町の児童公園にへ枯れ芝よ 団結をして春を待つゝの

句碑が建った。今後、この出版を機に鶴彬顕彰運動はますます盛りあがるだろう。

鶴彬こと喜多一二氏についての足跡も、大体的ことは知られてきたが、謎の部分もまだ残っている。軍隊時代の部分では彼の同年兵だった人達により分ってきているが、軍法会議の記録が、先に石川県社会運動史刊行会が入手した「七聯隊赤化事件判決文」以外は不可能に近い入手状態にあること、また大阪衛戍監獄時代のことでも断片的にしか分っていない。四年間、星一つで一年八カ月の刑期をすませて除隊した後、二年近く高松に住んだのだが、この時期のことは徐々に整理されている。

七連隊赤化事件の初公判は昭和六年五月十五日午前九時に開かれている。当時の新聞記事によると、この第一回公判の軍法会議には谷村芳農党弁護士はじめ北川重吉、喜多徳次郎(叔父)その他

十数名の労働組合員が傍聴し、中には菜っぱ服の猛者連も居た云々、と書いている。しかし公判が事件の核心に入ると竹沢檢察官が傍聴を禁止したために、紛きゆうし、叔父の喜多徳次郎氏だけ残して退場させた。六月十三日に判決があつたのだから、まさにスピード裁判で司直側は前記竹沢の他に前原旅団長、小林少将、宮沢参謀長、及び憲兵隊関係者が参加している。この時の鶴彬の主張も伝聞として残っているが、ここではいさぐく。

昭和八年暮刑期を了えた彼は、雪のちらつく中を金沢に帰つて来た。そこで柳人中川めかく子に会つている。中川氏はすでに故人となつたが、戦後は社会党市議で「和」同人でもあつた。彼は当時ののもよを次のように記している。――雪の橋場町で軍の外套に身を包んだ色白い兵隊が私に近づいて来た。これが衛戍監獄から刑期を了えて原隊に還つてきた一二君の久し振りの顔だった。

――原隊を出ると、その足で私の宅に二泊し、高松に帰つた。――話は監獄生活の余談と、これから後どうして生きるかという話につき、それも普通人なら悲憤こうがいので訪るところを、呵呵大笑しながら全く自分も愉快でならないと言つた調子で語つていた。

高松に着いた彼は叔父の家には寄らず、知人のもとに寄宿している。当時の世情を考えると、唯一の方法だった。ここでは「川柳人」に投稿するかたわら、ときには金沢の柳誌にも若干のエッセイを発表しているが表だった活動はない。ただ短冊を多く遺した時期だ。しかし未発見のものが多い。当時、津幡署の特高で鶴彬の担当だった松島勇作（故人）と言う人も川柳人で号を、みどり葉と言つたが、鶴彬の短冊を戦後も何故か所持していた。鶴彬については余りよく言わなかつた人物だが、それはかつての権力の末端として当然とし

でも、彼の句を大事に所持していたことは面白い。
とまれ、鶴彬の生涯、それも決して長くないどころか、ちじめられた短い人生だが、語ればきりがな
い位にその足跡は大きい。

「在ソ三年生と死のドラマ」

連載開始までに執筆者の人となり
を娘・Sさんが語る。

(前号の要旨)

……大正二年八月十三日静岡生まれの父、農学校を昭和六年三月に卒業、国内は不況、日支両間は険悪、義勇奉公の空気が広がっていた。徴兵検査を受け甲種合格、満州独立守備隊へ昭和七年入隊。憧れて入った日本軍隊、しかし「日本陸軍の実態」に落胆失望し二年間で除隊。警務隊員として満州国鉄路参護団陸軍鉄路警護兵に。敗戦でシ

『鶴彬全集』を通じて多くの人がいろいろの方向から研究に成果をあげられることを祈る。

(一九七七・七・二二)

ベリヤ抑留。死の恐怖を体験した。帰国を果たし故郷静岡に帰ったが、妻子はいなかった。……

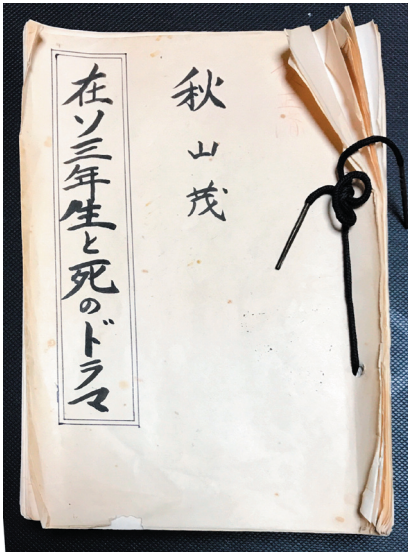
みんなが来てくれた

(2)

坂本富沙子 金沢市(70歳) 執筆当時

様子の分からぬ田舎へ帰るのは嫌だと妻は四人の子を連れ自分の故郷金沢へ戻っていた。

金沢でやっと妻子と再会はしたものの、妻子の実家は義父の病氣、家は抵当に入っている、義兄の家族も満州から引揚げて来て同居しているとい



極寒のシベリア抑留生活が続かれた秋山茂氏の遺稿。
次号から連載開始！

う八方ふさがりの状況であった。
生まれて初めて住む金沢で知人一人としていない父は、病床の義父に教えてもらいあちこ言われた通り頼みまわり、やっと鱒町（現在の幸町）のボロボロのこっぱ葺きの平屋に間借りすることが出来た。

金沢に来てすぐ某織機メーカーに就職していたが、全国的な不景気の波がこの同族会社にも押し寄せて来ていた。その時仲間の職工達と組合作り

が話し合われ、否応なく父が執行委員長に選ばれた。

働く者の権利と生活を守るためにと役員と何度も談判、私心全くなくとに角働く人々のためにと必死に訴える父に、社長も心を開き直々の対応で、分割ではあるが賃金も退職金も支払う確約が取り交わされたのだった。

しかし昭和二十五年十月、企業閉鎖、全員解雇。以降父はどんな就職試験を受けても元組合執行委員長が仇となつて採用拒否であった。

食べ盛り、育ち盛り四人の子を抱え職のない父の焦燥感と社会に対する不信感、頂点に達していた様だ。突然全く未知の世界である「あかだ」売りを始めた。

みみずくに似た細長い体長十センチ位の虫で見ているだけでも気味の悪い代物であるが、当時は魚釣りの餌として重宝がられ、早朝の金沢駅前には

「あかだ」売りの人々がずらりと並んで商売していた。

午前三時、四時に起き、一日百円で借りた自転車に乗り大野川まで走り素裸で腰まで川に浸りながら、シャベルで河底の泥をすくう。

晩秋の川の水は冷たく、体の芯まで冷え込む「あかだ」とりは重労働であった。

その「あかだ」を持って翌朝五時〜八時頃迄金沢駅前で釣り人を相手に盃一杯百円で売るのである。面白いように売れて千円、二千円の大金が入り家族にとっては有難いことであった。

だが父の書いた物を読む時、この土地に誰一人として面識者はいないと知りながらも、貧相な姿で盃に「あかだ」を盛り売る自分の姿が惨めで可哀想でならなかった。とその誰にも言えぬ胸中がはとばしる様吐露されていて思わず涙してしまった。

弱い労働者の権利と生活を守るためにひたすら組合活動をして来たことが、多くの旧社員のためにはプラスとなったが、自分にはマイナスの要因になってしまっている。その不条理が日々の貧しさで相まって父の口惜しさは悲しみとなり深く胸に突きささった様だった。

昭和二十七年四月頃、様々な職業を転々としていた父が当時最大の通運業であったN社にやっと臨時で就職出来た。

「仲仕」という重労働の現場で、初老の父は五、六十キロの荷を肩に必死でヨロヨロと運搬していた。

屈強な若者の多い仲仕の現場である。当初はそのヨロヨロ姿がおかしいと笑いの種にされる屈辱があり、身も心もズタズタになっていた。だがそこで投げ出す訳にはいかないので。妻子のためひたすら頑張る父の仕事に対する姿勢に、上司をは

◆8月19日(日)

かほく市川柳祭
高松産業文化センター

済

◆9月2日(日)

鶴彬川柳大賞発表
鶴彬忌川柳大会

済

◆9月14日(金・命日)

◆鶴彬分骨墓碑

建立記念式

pm1:00 ~ 1:30

◆鶴彬をたたえる集い

碑前祭(歴史公園にて)

pm 2:00 ~ 2:30

◆講演会「ドイツの鶴彬」

講師：田村光彰先生

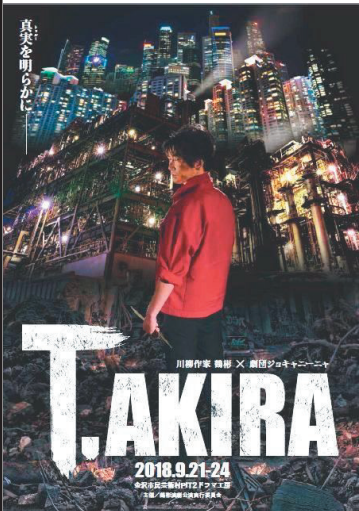
pm 2:40 ~ 3:40

今年は鶴彬
没後80年。
顕彰企画がいっぱい!

鶴彬が帰ってくる!

◆高松・浄専寺に盛岡・光照寺から分骨された鶴彬の墓碑が新しく建立されます。

◆鶴彬の業績は最近海外にも紹介され、評価されています。戦後処理問題に詳しい田村光彰先生から最新事情を教えてください。(南町会館にて)



9月21日(金) ~ 24日(月・祝)

演劇「T・AKIRA」

豊多摩病院のベッドで死の淵にいる鶴彬が見た夢の話《新感覚の鶴彬》

9月21日(金) 21:00

22日(土) 14:00 & 19:00

23日(日) 15:00

24日(月・祝) 11:00

●劇団 Coffee ジョッキニーニャ

●金沢市民芸術村

チラシご希望の方は
編集室まで連絡を!



大阪でも鶴彬碑前祭 演劇も上演

じめ仲間達からも次第に信頼を得ていった。
ここでも臨時雇い者の待遇改善などを求めている
働運動が盛り上がり、皆に推され結局その先頭に立つ
てしまう父であった。

◆大阪「第11回鶴彬顕彰碑『碑前祭』

大阪城公園／9月14日（金）午

前10～11時

◆反戦反核平和詩歌句文集『いまこそ声たからかに』

～輝けみんなの憲法～

第25集刊行 四八〇名の作品収録

1000円（送料500円）

◆劇団きづがわ創立55年記念・第77

回公演 「鶴彬～暁を抱いて」

12月15日（土）・16日（日）／リバティ

ーおおさかホール（大阪人権博物館

例え臨時であつても父が定職につけたことで我が
家も子の成長と共に、何とか落着いた生活が出来る
様になっていた。（つづく）

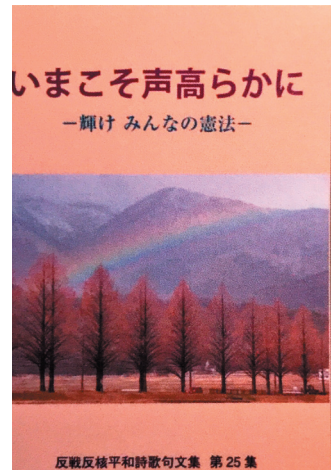
前売／一般3000円、シニア（65歳以上）2500円、
夫婦割引5000円

チラシより…獄死八〇年、今を撃つ反戦川柳・鶴彬
を劇化上演。この国は憲法九条と日米安保体制の闘
ぎ合いの下で辛くも《平和》が続きました。ところが
が暴走を重ね、「九条改憲」へとひた走っています。
虐殺九〇人、拷問虐待死千六百人と言われる弾圧の
嵐の中で反戦を貫いた鶴彬！ 文化・芸術の創造や
普及に携わる者の《仕事》として、私たちも、鶴彬
に学び生き抜きたいと考えての劇化、上演・企画で
す。

2018 石川県川柳文化祭

日時：9月27日(木)11時開場
 場所：白山市松任学習センター
 会費：2,500円(句会費、昼食など)
 記念句会：各題二句 12時半〆切

- 宿題
- ・ ほどほど (松谷早苗選)
 - ・ 守る (桑原ともえ選)
 - ・ 袋 (中川洋子選)
 - ・ 転 (今村久枝選)
 - ・ 気 (石本よし一選)



反戦反核平和詩歌句文集 第25集

詩・漢詩・川柳・俳句・散文・短歌

480名の作品収録

A5版・1,000円 *送料500円

■初集より24集までを全集所蔵先
 日本現代詩歌文学館
 国立国会図書館
 大阪府立図書館
 立命館大学平和ミュージアム
 堺市立中央図書館

全日本川柳誌上大会のご案内(柳多留第21集)

日本の全柳人が、だれでも、どこからでも参加できる「全日本川柳誌上大会」(平成柳多留第21集)を開催します。日川協年次大会・国民文化祭文芸大会と並ぶ(一社)全日本川柳協会の権威ある三大自然行事ですので、こぞってご参加ください。

課題と共選者(各題2句・連記)

- 「和む」 池 さとし 大田かつら 共選
 「予定」 堀井 勉 岩原 茂明 共選
 「叫ぶ」 館岡 稲風 稲村 遊子 共選
 「コイン」 安藤 波瑠 岡田 篤 共選
 「幕」 矢野 義雄 大島 風子 共選

第二次選者 竹本瓢太郎 佐藤 岳俊 鈴木 公弘

齊藤由紀子 田中 螢柳

参加費 2,000円(投句料)・平成柳多留「第21集代金含む」

賞 平成柳多留賞・川柳大賞・NHK会長賞・

日本青少年育成協会会長賞・全日本川柳協会賞・

全日本川柳誌上大会賞(予定)

締切 平成31年1月31日(木)〔当日消印有効〕

発表・表彰 第43回全日本川柳浜松大会(2019年6月)

参加方法 参加用紙に記入し、参加費2,000円(振替又は小為替)とともに左記へご送付ください。

〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1-11-905

一般社団法人 全日本川柳協会

電話 (06) 6352-2210
 FAX (06) 6352-2433
 振替口座 009701913575

報告あれこれ

◆東京の乱 鬼龍さんからのおたより。

「和川柳社御中 連日の猛暑ですが、いかがお過ごしでしょうか。先日お話のしました鶴彬演劇の「DVD」他お送りさせて頂きます。少しでもお役に立てば幸いです。同封のようには、今年の12月までに「反戦、平和和川柳句集」を、みんなで作るべく今とりくんではるところです。9月の「金沢公演」は東京から有志で観劇に行こうと話し合っているところ

和川柳社 9月例会の案内 (毎月第4月曜日)

◆9月24日(月) ◆×切:9月21日(金)

◆課題 「史・歴史」 3句以内 ◆自由吟:5句以内吐

◆自選吟、連作、エッセイ、川柳論、ご意見などもお寄せ下さい。 ◆会場:金沢市金石 (乞「連絡」)

◆句報を持参下さい。例会で話し合います。

●投稿 FAX(076) 254-0762

●メールアドレスは下段に。

郵送は
下段住所へ。

です。ご自愛され御活躍ください。乱鬼龍

◆八月と九月は原爆忌、敗戦記念日、鶴彬の命日(九月十四日)が続き、全国で平和を祈念し様々な催しが行われています。一方沖繩では政府による強引な辺野古基地建設が進められ、翁長知事の死去に伴う沖繩県知事選挙が闘われています。日米安保の下で米軍基地の7割が沖繩に作られ2500発の核弾頭も置かれたこともある沖繩の将来は日本の将来でもあります。九月三十日に注目です。

◆編集後記

◆猛暑や鶴彬忌句会の準備などもあり、8月句会是集まりをせずメールやFAXで連絡をとりあい、なんとか選考も終え形になりました。みなさまありがとうございます。遅延深謝。(編集子)

和川柳社 ////////////// 金沢市金石東2丁目15-30 (渡辺方)

電話 FAX: 076-254-0762 PC-mail: kanaanabe@popolo.org

携帯: 090-9445-1302 携帯 mail: kan-wata@i.softbank.jp

振込先: 北國銀行中央市場支店 #191 普通 640- 和川柳社